

# 光と緑の風通信

発行/2011年6月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL024-547-1111(代)

## 平成23年度 福島県立医科大学看護学部 新入生の皆様へ

看護学部長 鈴木 順造



ご入学おめでとうございます。看護学部教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。私たち教職員は、皆さんそれぞれが描いている夢の実現のために、あらゆる面で応援いたします。

本県は、巨大地震とそれに続く大津波による甚大な被害、そして我が国で誰ひとり経験したことのない原子力発電所の事故による被災、さらに風評被害まで受けています。しかし、いたずらに不安を抱いたり、不正確な情報に惑わされたりすることなく、正しい知識に基づく科学的な判断をすることが大切です。放射線被爆による健康被害については、専門家によれば、現時点では何ら心配する必要はないとのこと。今、本学に課せられた使命は、このような未曾有の災害、中でも原子力発電所から生じた放射線災害を医学・医療の面から科学的に検証して世界のリーダー

になり、日本の将来を担う次世代を守るという、大規模かつ魅力的な仕事に貢献することであると思います。この危機をチャンスに変えるバネとして、明るい未来社会を構築するために、がんばろうではありませんか。

ところで、大学に入るということは、生徒から学生になることです。学生は、「学問をする」者を意味しています。学問は、知識を蓄積するだけではありません。人類の叡智にまで昇華させることです。その道は、決して平坦なものではありません。しかし、夢があれば、必ず到達できるものです。自らの夢に向けて挑戦してほしいと思います。

大学は待つていては何もおこらないところです。主体的に、まわりのものからすべてを吸収するのだという、貪欲な姿勢で、学生時代というかけがえのない時間を悔いが残らない様に過ごされることを望みます。

(すずき じゅんぞう)

## 求められる 看護職者とは・・・

研究科長 横田 素美



東日本大震災により被害を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

私共、本学部の教員の多くも、あの未曾有の震災をこの学部棟で体験し、その後の混沌とした日々を過ごしてきました。

こうした中で、3月末に学部卒業生と大学院修了生を送り出

し、5月に新入生を迎えることができたことは、本当に大きな喜びであり、希望に繋がりました。この数ヶ月、震災を経験した一人一人が様々なことを考えてきたことと思います。

私自身も附属病院や避難所において、患者の方々と住民の方々と関わらせて頂き、「質の

高い看護実践力を備えた看護職者」が求められていることを実感し、そうした看護職者の育成に携わっていくことが、今の私にできることだと強く思いました。また危機的な状況に遭遇した際に、「智慧を働かせて」、「自分の確に判断し」、「自分の決断に責任を持つ」、「力が重要であり、こうした力を培うことの大切さを痛感しました。今こそ自律した看護職者を一緒に目指しましょう！」

(よこた もとみ)

## 新 入 生 へ 贈 る 言 葉

### 新入生の皆さんへの提案

療養支援看護学部門 伊藤 由里子



3月11日の大震災では、何が本場に自分たちの人生や生活、そして子どもたちのために必要なかを真剣に考える必要があると思われ知らされまし

た。また、人を救うのも支えるのも人だということに改めて学びつつあります。不安と苦悩を背負いながら「自分たちしかない」と責任感を持って、東京電力福島原子力発電所で働

いてくださっている人をはじめ、被災し、自らも多くのものを喪った福島の人々は、その土

地やそこでの生活をよく知っている者だからこそできることを探し、行動しています。このような人々の気持ちや行動とつながり、私も自分にできることを行いたいという気持ちになりました。いま、私にできること、それは医大看護学部学生の方々に教員としてしっかりと関わることで、看護の経験が伝えることだと考えています。

私は内弁慶で、人とつながることにはあまり積極的ではないのですが、看護を選んだおかげ

で、たくさんの人と出会い、その方たちとつながっていくことができたと感じています。今度機会があれば、私が看護を選んだ理由をお話ししましょう。このような私ですが、これまでの経験から、新入生の皆さんに提案したいことがあります。それは、多くの人の支えによつて活かされている自分に気づき、「自分を一人の人間として大切に

する」、そして、「自分から近づく」、「自分からやってみる」ことです。自分から行動していくことは、勇気があることですが、それに見合う結果を得ることができると信じています。「一緒に頑張らしましょう。」

(いとう ゆりこ)

# Welcome Message

## 先輩からのメッセージ

### 新入生の皆さんへ



3年 佐藤 香織  
 新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活には慣れて来た頃でしょうか？大学では勉強に部活、一人暮らしやアルバイトなど今ま

では違った経験が出来ます。そして、どの程度一生懸命にやるか、何に挑戦するかは本当に自由です。私は軟式テニス部に所属しており、塾講師のバイトをしています。よく新入生に勉強しながらバイトと部活の両立は出来ますか？と聞かれますが、答えは自由に出来ません。ただし、自由には責任がつきもので、やるからには自分で考え決定し、行動しなければなりません。上手く行き楽しいこともあれば失敗して辛い思いもするかも知れません。私もそうでした。しかし、そういった経験の中で充実感や大切な仲間を得ることが出来ました。今しか出来ないことを自分なりにやってみてください。様々なことに挑戦出来るこの時を活かし、充実した4年間を過ごしてください。(さとう かおり)

### 新入生の皆さんへ



編入4年 武山 美帆  
 新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

震災の影響により、1ヵ月遅れで新学期がスタートし、新入生の皆さんも様々な不安を抱えながら入学の日を迎えたのではないかと思います。

私は宮城県出身で、地元の島は津波の大きな被害を受け、今後の

生活に強い不安を感じるとともに、「へ、自分が何ができるのだろう？何をすべきなのだろう？」と避難所の手伝いをしながら自分に問いかける日々が続きました。今、私達学生ができることは限られていますが、将来、医療従事者として少しでも多くの方の役に立てるよう、日々努力していくことが求められていると思います。

福島県立医大には、新入生の皆さんをサポートして下さる先生方や先輩方が数多くいます。多くの人との出会い、支え合いの中で充実した大学生活を送ってください。(たけやま みほ)

### 新入生の皆さんへ



2年 馬場 隆輔  
 新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活には慣れてきたでしょうか？

さて、大学生活は4年間です。何も考えずにいるのは4年間なんて本当にあつという間に過ぎてしまいます。入学したと思ったら僕ももう2年生です。大学生になってもしっかり時間は待ってくれないです。

### 新入生の皆さんへ



4年 村松 亜矢子  
 新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます!!

大学生活にも慣れてきたでしょうか？まだまだ不安なことやわからないことなどはいっぱいあると思いますが、その時は遠慮せず先輩方や先生方に頼ってください。やさしく、とても親身になって相談のつてくれると思います。また、実習や勉強など学

### 新入生の言葉

#### 大学院看護学 研究科に入学して

がん看護学領域 渡邊 祝子



私は本学看護学部で看護を学び、卒後は消化器内科・外科・泌尿器科・放射線科の混合病棟に入職しました。入院している方はがん

に罹患している方がほとんどで、全身状態がめまぐるしく変化する周手術期の患者さんから終末期の患者さんまで、状況は様々です。個々の治療方法を理解し、アセスメントする面白さや難しさ、やりがいを感じて仕事をしています。新人の頃は日々の業務の多忙さに

## 新入生のひとこと

### 【新入生】81名

秋山 のぞみ 【新入生】

地震の影響で1ヶ月遅れの大学生活となりましたが、そのぶん懸命に学習に取り組み充実した大学生活を送りたいと思います。

荒家 恵 【新入生】

私は、この県立医科大学で勉学と部活動を頑張りたいです。私の目標は、患者さんの少しの変化に気づける看護師になることです。

飯田 あやめ 【新入生】

大学では勉強と部活を頑張って学生生活を充実させて楽しみたい。日々皆さんのことを学んで人として成長していきたい。4年間よろしくお願します。

飯村 亜衣 【新入生】

この東日本震災によって家族や地域の人との絆の大切さを実感しました。大学ではその経験を生かし看護によって人と人との絆を強められるようになりたいと思います。

池田 萌 【新入生】

念願の福島県立医科大学に入学し、早くも2ヶ月が経とうとしています。授業も本格化してきて増々看護師への夢が強まっています。今後も目標に向けて努力していきたいです。

石井 睦美 【新入生】

やっと憧れの大学に入学することができ、とても嬉しく思います。これから4年間、理想の看護師になるために日々努力を惜しまず、充実した学生生活を送りたいと思います。

石井 優香 【新入生】

入りたいと思っていた大学に入学できたので4年間楽しみたいと思います。立派な看護師になれるように、勉強も頑張っていきたいです。

石上 友貴 【新入生】

大学では、今までの学生生活では経験することができなかったバイトや、学ぶことができなかった学問を学ぶことができるので楽しみにしています。勉学には特に励みたいです。

石川 愛彩 【新入生】

不安だらけの私を暖かく迎えてくれた皆さんに恩返しができるよう、この福島の地で成長していきたいなと思います。学びも遊びも一生懸命に、楽しい毎日を送りたいです。

泉川 歩美 【新入生】

将来に向けて勉学に励みたいと思います。部活動にも参加し、大学生活を充実したものにしたいと思います。

一條 修也 【新入生】

大学は高校と違う所が多くあると思うので、早く慣れて学習と部活やサークルをガンバリたいと思います。

市場 里紗 【新入生】

勉強と部活を両立していけるようにがんばりたいです。大学生活の4年間をのんびり楽しみたいと思います。

猪俣 暢晋 【新入生】

今回の大地震による被害の中で、改めて精神的ケアなどにおいて看護師の重要性を実感しました。自分も様々な面でケアができるよう看護について4年間一生懸命学ばたいです。

猪又 瑞紀 【新入生】

大学で出会った友達や先輩、部活などを通して多くのことを吸収し充実した大学生活を送りたいです。理想の看護師に近づけるように努力し、自分に厳しく勉学に励みたいです。

遠藤 七恵 【新入生】

学生生活において国家試験合格という目標に向け、日々努力していきたいです。また、部活などを通して、人間関係も学んでいき、有意義な4年間を送っていきたいと思っています。

遠藤 真希子 【新入生】

震災により様々な困難が立ちわたりながらも、入学できたことを支えて下さる人々や家族に心から感謝します。これからの復興を担う医療従事者となるよう、努めたいと思います。

大輪 彩加 【新入生】

今回の大震災の中、1ヶ月遅れでしたが憧れの大学に入学することができ、嬉しく思います。将来、福島県の医療を支える一員になれるよう、日々精進していきたいです。

荻野 徳子 【新入生】

今、福島県は非常事態の中にあります。しかしそんな時こそ普通に過ごす事、つまり私の場合は大学生である事に一生懸命になりたいと考えます。

加茂 あすみ 【新入生】

小さい頃からの夢である看護師に、少しずつ近づいていくことを日々噛みしめながら、初心を忘れず大学生活を楽しみたいと思います。

菅野 祥枝 【新入生】

これから大学4年間、私は、福島県立医科大学の学生であるという自覚を持ち、福島の医療に貢献できるように常に目標を高めて、勉学に励んでいきたいと思っています。

菊地 綾 【新入生】

私は幼い頃から看護師になることが夢だったので、しっかりと勉強して立派な看護師になりたいと思っています。そして部活も頑張りたいです。大学生活楽しんでいきたいと思っています。

北島 安美 【新入生】

この春、伝統と歴史ある福島県立医科大学の看護学生となれたことを大変嬉しく思っています。社会に貢献することのできる医療従事者となるため、学業に励んでいきたいです。

國井 景子 【新入生】

無事に入學できて本当にうれしく思います。授業を通して看護学をしっかり学び、また友人の輪を広げ多くの人と関わり、将来社会にでた時困難に立ち向かえる人になりたいです。

熊谷 美保 【新入生】

未曾有の大震災が起こりましたが、無事に県立医大に入学できて本当に嬉しかったです。本学で自ら意欲的に学び、行動し、地元で貢献できる看護師になりたいです。

栗城 康 【新入生】

早く大学の生活に慣れて、勉強と部活動の両立が出来るように一生懸命努力していきたいと思っています。

栗城 真優 【新入生】

憧れだった大学に入学することができ、大変うれしく思っています。理想の看護師者となるよう、授業や部活動を通して、4年間で多くのことを学んでいきたいです。

黒澤 香純 【新入生】

東日本大震災により多大な被害を受けた福島だからこそ学べるのが沢山あると思います。このことを忘れずに一生懸命に県立医科大学で学んでいきたいです。

黒澤 美幸 【新入生】

福島医大に入学することができて、本当にうれしく思います。4年間で様々な経験をして、多くのことを学びたいと思っています。よろしくお願します。

小島 史圭 【新入生】

大震災という悲劇を体験し、そして今県立医科大学に入学をしたという自覚を持ち、社会に貢献できる看護師になれるように努力していきたいと思っています。

古関 詩史 【新入生】

医大看護学部に入ることができ、本当に嬉しです！勉強も遊びも一生懸命頑張ります！

小林 慶大 【新入生】

私は南相馬市の出身で友人や知人に被災してしまつた人がいるので、看護師としての技術精神を身につけ、地元を少しでも支えられるようになりたいと思っています。

小松 凌 【新入生】

私は3月の東日本大震災によって、より一層看護師という仕事に熱い思いを抱くようになりました。4年後には看護師として福島や日本そして世界に貢献していきたいと思っています。

紺野 絵莉子 【新入生】

毎日規則正しい生活を送り、部活と勉強の両立を頑張りたいと思います。

佐々木 日可吏 【新入生】

私は人と人との関わりや出会いを大切に、その中で様々なことを学び、技術的にも精神的にも成長し、安心で信頼のある医療を地域に提供できる医療従事者になりたいです。

佐々木 瑞鳴子 【新入生】

これから4年間勉強に励んで自分の目指す看護師になれるように頑張っていきたいです。受け身の姿勢ではなく自発的に学習していきたいと思っています。

佐藤 亜耶 【新入生】

県立医大に入学できて嬉しく思います。大学では看護学の勉学に励み、私の目標である、助産師の資格をとれるよう、充実した学生生活を送っていきなと思っています。

# WELCOME!

## 新任教員挨拶



### がんばろう！福島

基礎看護学部門 佐藤 美子

本年度より、基礎看護学部門(看護管理)に着任いたしました。震災の直後であり、さらに福島県は風評被害により、学生の皆様、教員の方々がどのようなお気持ちでいらっしゃるのか到着するまでは推し量ることができませんでしたが、当初からの被災地への積極的な看護支援を知り、大学を取り巻く桜の花と同様に清々しさと強さを感じました。

この機会にこの地で、この大学で皆様とともに看護を考えたり、感じたりしていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いたします。



### はじめまして

療養支援看護学部門 坂本 祐子

本年度より療養支援看護学部門(老人看護学)に着任いたしました。医大の図書館を他大学の前期課程在籍中の10年前、よく利用していました。いつ利用しても学生さんの学業に勤しむ姿に、目標に向かって進む人の眩しさを感じたことを思い出しています。

福島での生活は初めてで戸惑うこともありましたが、人との出会いを大切に、出会った人から教える大切に、頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



### よろしくお願致します

母性看護学・助産学部門 渡邊 一代

4月から母性看護学・助産学部門に着任いたしました。新しい仕事場にドキドキ3割、ワクワク7割です。本学は緑豊かで素晴らしい環境です。ね、私はバス通勤で朝は時々手前降りて歩きます。この新緑の時期は、木や草花を見て歩きますので身体も心も喜んでいきます。

私は自己研鑽に励み、皆さまにも教えていただきながら、学生の皆さんと共に頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

佐藤 幸亜 【新入生】

今回の大震災を経験し、看護師になり福島で地域医療のために貢献したいという気持ちで強くなり、そのために1日1日を大切にしたいと生きています。

鈴木 茜 【新入生】

自分の明るい性格を生かして、福島県のために看護師として貢献したいと思っています。大学では、理想の看護師像に近づけるように努力していきたいと思っています。

鈴木 彩夏 【新入生】

1つ1つの出会いを大切にしながら、充実した大学生活を送りたいと思っています。また卒業後には、福島県の医療に力をつくるよう、努力していきたいです。

鈴木 愛 【新入生】

今年は大変大きな震災に見舞われましたが、これを機に看護についてたくさん学び吸収し、様々な世代の方々の心身の健康を守る保健師になり、地元医療に貢献したいと思います。

鈴木 麗 【新入生】

この大学で過ごす4年間であるべく多くのことを学べるように頑張りたいと思っています。

関内 利英子 【新入生】

福島県立医科大学の看護学部生であるという自覚を持って、大学生活を送りたいと思っています。

関谷 香央里 【新入生】

入学して、まだ慣れないことも多いですが、夢の実現のために努力していきたいです。

高橋 史華 【新入生】

震災に見舞われながらも、憧れていたキャンパスで大学生活を始められることを嬉しく思います。地域医療に貢献できる医療人を目指し、様々な事に積極的に取り組みたいです。

### 【編入3年生】4名

佐藤 紀子 【編入3年生】

私は、3年次編入生です。2年間という短い大学生活ですが、保健師の資格取得を目指して精一杯頑張ってきたと思います。また、沢山の仲間を作り楽しく勉強したいと思います。

中山 静香 【編入3年生】

震災で1か月遅れてでしたが新たな環境でスタートをきることができました。大学での出会いや経験、学びを大切に看護観を深めたり、自分を成長させていきたいと思っています。

湯田 智仁 【編入3年生】

私は県内の看護学校を卒業してこちらに入学しました。生活習慣病の蔓延や深刻化する高齢化社会に活路を見い出せる保健師になれるよう勉学に励みたいと思っています。

高橋 由佳 【新入生】

念願の看護学を学ぶ事ができるといって、看護師に必要な幅広い知識や体力を見につけ、又、多くの方と交流して、楽しく充実した大学生活を送りたいと思っています。

土田 未森 【新入生】

私は中学の時に看護師を志し高校から看護を学びました。大学ではより専門的な知識を自ら学びたいと考えています。将来は福島県の地域医療に貢献していきたいと思っています。

土田 由佳 【新入生】

大学では自ら積極的に行動し、目標に向かって一生懸命に勉強に励んでいきたいです。

土屋 那津美 【新入生】

何事にも全力で取り組み、学業の面でも精神的な面でも成長していきたいです。また、たくさんの方との関わりの中で、自分を磨き上げたいと思っています。

土屋 遥香 【新入生】

理想の看護師になるためにも、4年間勉学に励みたいと思っています。

鳥畑 麻衣 【新入生】

入学は遅れてしまいましたが充実した大学生活を送りたいです。こんな時こそ学べることに感謝し、自分自身で、自分が目指す看護師になれるよう努力していきます。

永岡 彩音 【新入生】

震災の影響で入学式が遅れましたが、無事志望校に入学できてとても嬉しく思っています。4年間、様々な経験を通して成長しながら看護師を目指していきたいです。

中里 真由美 【新入生】

3月11日の東日本大震災以来、福島では大変なことが続いていると思いますが、その中で学ばせてもらえることに感謝をし、授業1つ1つに真剣に取り組みたいです。

長澤 園子 【新入生】

私は社会人入試で入学しました。多様な人材の受け入れをしていただいた本学に感謝し思われた環境を最大限に活用して、地元福島の未来の発展に寄与していきたいです。

【編入3年生】

渡部 聖子 【編入3年生】

大学に入学して、2ヶ月が経ちました。まだ慣れないことが多いですが、いろいろなことを学び今後の自分の成長につなげていきたいです。そして、1日1日を大切に過ごします。

### 【大学院生】14名

阿部 久美 【大学院生】

東日本大震災で被害を受けた皆様に御見舞いを申し上げます。私の抱負は大学院での学びを通して県民の皆様により良い看護を提供していきたいと思っています。

猪俣 沙織 【大学院生】

学問は無量大、知の力なりこの言葉を支えに学ぶことを大いに楽しみたいです。

行田 亜里咲 【新入生】

1カ月遅れた入学でしたが、この大学で学べることを楽しんでいます。小さい頃から看護師になりたかったので勉強が楽しみです。友達や先輩方と大学生活を楽しみたいです。

西戸 知佳 【新入生】

地震の影響でまだ先が見えない状況の中、無事に入学できたことを嬉しく思っています。本学で看護を含めて広く学び、目標に向かって頑張りたいと思っています。

西牧 直人 【新入生】

単位落とさないようがんばります。

二瓶 悠 【新入生】

ずっと希望していた大学に入学して2ヶ月。まだまだ慣れない部分が多いですが、これからの4年間、勉強、部活、遊びなどを通じて成長していきたいと思っています。

橋本 結依 【新入生】

合格できて嬉しいです。今までやりたかったこと、大学でしかできないことをこの4年間で楽しみたいです。外見も中身も素敵な人間に。

羽染 美咲 【新入生】

今回の震災で大学進学をできなかった方々の分まで、一生懸命学んで行こうと思つて。

馬場 彩花 【新入生】

4年間の大学生活の中で豊富な知識や技術を得られるよう、また、自分が目指している看護師像に少しでも近づけるように、日々学習に集中して取り組みたい。

原田 結衣 【新入生】

これらの4年間でたくさんの方と関わり、人として大きく成長して自分の追い求める看護師になれるよう、努力することを忘れず頑張りたいと思っています。

平野 博士 【新入生】

念願の福島県立医科大学の看護学部に入ることができたので、大学生活を存分に楽しむことはもちろん、しっかりと勉強して立派な看護師になれるよう努力したいと思います。

【大学院生】

大森 徹 【大学院生】

この十数年で精神科看護も大きく変わったと感じています。しかし、まだまだ古しさが残っているのも確かです。本学で根拠のある看護ができるよう学びたいです。

柏木 久美子 【大学院生】

学べることに感謝し、1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

川井 淳也 【大学院生】

学生に戻るには10年振りです。仕事と学業との両立はかなり大変だと思いますが、何事も諦めずに頑張りたいです。

菅野 秀 【大学院生】

この看護学研究科で、看護学の質の向上に寄与することができると看護専門職者、研究者となれるよう、仲間達と勉学や実習に励みたいと思つて。

藤川 千奈都 【新入生】

なんとか大学生になることができました！この大学に入学することになったのも何かの縁だと思つています。この縁を大切に充実した4年にしたいと思います。よろしくお願致します。

藤原 菜美 【新入生】

幼稚園の頃から、看護師になる夢への一歩が踏み出せてわくわくしています。大学と高校の授業の違いに早く慣れて、しっかりと夢を叶えられるための勉強を頑張りたいです。

瓶子 遥 【新入生】

私たちは今回の東日本大震災を受けて、津波や原発の問題を抱えています。5年、10年先のことを見据え、これからの大学生活を送りたいと思っています。

星 美加 【新入生】

1ヶ月遅れた入学式を終え、新しい仲間や先生方に会えて嬉しかったです。将来、地元で医療に少しでも役立つように大学をしっかりと活用していきたいと思っています。

細野 連理 【新入生】

私は今回の入学にあたり、人の持つ内外の痛みを理解し患者さんと医師の信頼関係をサポートできる看護師になるべく、これから勉強や課外活動を頑張りたいと思っています。

水沼 知佳 【新入生】

この大学に入学できた事を大変嬉しく思います。将来必要となるであろう豊富な知識や経験を身につけていくことも、課外活動にも盛んに取り組み、充実させていきたいです。

緑川 里菜 【新入生】

私は専門的な看護を学ぶと共に、多くの人との出会いも大切にしたいです。また、日々成長する気持ちを忘れずに、充実した大学生活を送りたいです。

安田 令奈 【新入生】

念願の大学に入学できても嬉しく、今看護師になるためにやる気に満ちあふれています。勉強も部活も頑張りたい4年間にしたいと思っています。

山内 菜摘 【新入生】

これから4年間、看護師になるための勉強頑張ります。大変な事もあると思いますがよろしくお願致します。

【大学院生】

小針 朱子 【大学院生】

この度、大学院看護学研究科に入学しました。大学院での学びは大変な部分もありますが、なるべく楽しみながら勉強し、看護師として視野が広がれるよう頑張りたいです。

高田 昭 【大学院生】

震災で大変な福島県ですが、頑張りたいです。勉強も頑張りたいと思っています。

長井 泰子 【大学院生】

袖擦り合も多生の縁、このような時期に切磋琢磨できる学友に出会えたことに感謝して頑張ります。

野崎 裕之 【大学院生】

東日本大震災という未曾有の危機の年に入学した事はとても意味深いものがあります。看護を通じて少しでも復興に貢献出来るよう、大学院で専門職としての知識や技術を身につけたいと思っています。

山口 小友梨 【新入生】

まだ大学や一人暮らしには慣れませんが、何事に対しても積極的に取り組んでいきたいと思っています。

横山 秋奈 【新入生】

現在大変な状況ではありませんが、ここ福島県で看護について学べることを誇りに思っています。福島に貢献できるように切磋琢磨したいです。

吉田 かおり 【新入生】

1ヶ月遅れの入学で不安ももちろんありますが、この年に入学できたことを1つのチャンスに変え、福島の有力な人材になれるよう前向きに努力していきたいつもりです。

吉野 由夏 【新入生】

大学には様々なサークルやいろいろな友達先輩がいてとても楽しいです。私もたくさんの方に挑戦して、自分の世界を広げたいです。

吉本 春華 【新入生】

私はこの大学で、私の目指す看護師になれるよう、勉強や部活、実習など様々な経験を通じてより自身を成長させていきたいです。

和田 光貴 【新入生】

将来の夢を叶えるための第一歩として、人の命を預かる職業に就くことを重く感じながら、主に勉強や部活、アルバイトなど、どこに楽しんで充実した大学生活にします。

渡辺 彩乃 【新入生】

大学に入ってから朝5時半に起きるようになりました。とりあえず眠いです。毎日眠いです。眠いけど大学生活頑張ります。

渡部 春香 【新入生】

自分の夢に向かって勉強と部活に全力で取り組み、1生の思い出となる4年間にしたいと思っています。

渡部 雄貴 【新入生】

看護師の資格を取得するための勉強だけではなく、人としての豊かさや包容力も見つけたい。この大学で過ごす4年間に有意義なものにしたい。

【大学院生】

服部 桜 【大学院生】

1つ1つの出会いを大切にしながら、学びを深めていきたいと思っています。よろしくお願致します。

細川 香苗 【大学院生】

初めての環境に戸惑いつつも、素晴らしい仲間と過ごす2年間を思い、今からワクワクしています。福島は今、大変な時期ですが、負けずに頑張りたいと思っています。

渡邊 あゆみ 【大学院生】

卒業して5年。またこの場所へ戻ってきた。仕事に育児に勉強にと忙しい日々が続いていますが、私のペースで私なりの道を歩んでいこうと思っています。

渡邊 祝子 【大学院生】

がん患者さんに関わる中で看護だからこそできる事があると実感しました。かつての学舎で、看護の学びを深め臨床に活かしていきたいと思っています。よろしくお願致します。

よろしく  
お願い致します



家族看護学部門 安齋 典子

本年度より家族看護学部門(小児看護学)に就任いたしました。桜は、今年も昨年と変わらず美しく咲き、大学の周辺の木々は黄緑色に変わり、植物のたくましさを感じております。この自然のようにたくましく、そしてこころ穏やかに過ごせたと思っております。学生の皆さんにも、この自然のようにたくましく、そしてすべての人に思いやりの心で接していけるよう導くことができたらと思っております。

(あんざい のりこ)

はじめまして



母性看護学・助産学部門 清水川 由美子

今年度から母性看護学・助産学部門に異動してきました。4月まで福島県立医科大学附属病院に勤務していました。母性看護学・助産学領域で母性看護援助論と母性看護学実習、助産学実習、課題別実習等を担当させていただきました。授業や実習を通して学生の皆さんと共に学び成長していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

(しみずがわ ゆみこ)

はじめまして。そして、  
ただいま帰りました。



基礎看護学部門 林 紋美

本年度から基礎看護学部門に着任いたしました。私は、本学部の四期生として卒業し、三年の臨床経験を積んだ後、本学部の大学院に入り、今年三月に卒業しました。学生の頃とは異なる緊張感と、教育する側としての責任を重く感じますが、学生の皆さんには看護学の奥深さや醍醐味を少しでも伝えられるように努力したいと思っております。また、自分自身も日々成長し続けられるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

(はやし あゆみ)

こんにちは。



家族看護学部門 冬室 美和

この度、福島県立医科大学附属病院と本学部との人事交流として家族看護学部門(小児看護学)へ着任いたしました。臨床の場から教育の場へと活動の場が変わることへの不安もありました。しかし本学部でしか学ぶことができないことでもあるので、少しでも多くの事を学び今後の看護に生かしていきたいと思っております。そして、人事交流としても病院と本学部とのかけ橋になることができればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(ふゆむろ みわ)

# THANKS!

## 退任教員挨拶

### ありがとうございます

生態看護学部門 鈴木 千衣

皆様、お元気にお過ごしでしょうか。あの地震で、ご実家が被害に遭われた学生さん多いんじゃないかと思っております。心よりお見舞い申し上げます。なかなか原発事故が収束しませんが、1日でも早く皆様が心穏やかに過ごせる日が来ることを祈っております。最後に、13年間福島の美しい自然に囲まれ、多くの皆様と出会い、一緒に来たことを心より感謝いたします。ほんとうにありがとうございました。

(すずき ちえ)

### 学びと出会いの13年間に感謝

家族看護学部門 石田 登喜子

看護学部での13年間は、沢山の学びと、多くの方々との出会いの場でした。1,000名以上の学生さんと出会い、日々変化する看護や助産を学びました。県内の明治・大正生まれの産婆さんの聞き取り調査や、研究会活動を通じ、助産師としての技と心を学ぶとともに、県内全域の幅広い年齢層の助産師さんと出合いました。母乳育児支援を通して、全国の多様な医療従事者の方々との出会いました。学生さんともに行った思春期ピアカウンセリング活動では、中・高校生だけでなく、学校や行政機関の方々との出会いました。これらの学びと出会いを活動基盤とし、新たな人生を歩みたいと思っております。

長い間ありがとうございました。

(いしだ ときこ)

### 感謝

生態看護学部門 鈴木 幸恵

生態看護学部門の助手として3年間お世話になりました。初めて教育という仕事に携わり、教育の難しさ、素晴らしさを感じた3年間で、御指導いただいた諸先生方、新しい視点とひらめきを下さった実習施設の皆様、学生のために実習を受け入れて下さった患者さんご家族の皆様、そして多くの可能性を見せてくれた学生の皆さん、未熟な私を支えて下さった全ての方に深く感謝致します。ありがとうございました。

(すずき さちえ)

### その他の退任教員

- 家族看護学部門 菱谷 純子先生
- 家族看護学部門 川鍋 沙織先生
- 家族看護学部門 酒井 真知子先生
- も退任されました。

## 総合科学教育研究センター(CIAS)について

総合科学部門 亀田 政則



総合科学教育研究センターは多様な専門分野を担う教員によって構成されています。従来の医学部と看護学部という垣根を取り払い、大学全体に亘って求められる基礎教養教育と研究活動をおこなう機関です。センターでは、高い倫理観と幅広い教養を身につけた医師・看護師のみならず、多様な視点から問題を解決する能力を備えた医療研究者を育成するために、次のように基本目標を設定しています。

### ① 教育

「ゆとり教育や全国的な学生の定員増にともない、低下傾向にある入学生の基礎学力増強をはかります。総合科学と医療の関連を扱う「教科」の拡充によって、らせん型一貫教育をさらに発展させ、学生の学習意欲を高めます。学生の学力を客観的に評価し、教育へとフィードバックさせるために教養教育の技術的研究開発を行います。また多彩な分野で活躍できる教育者・研究者・技術者の育成に貢献するために、大学院教育への関わりを高めます。さらに、我々が両学部の教育を主体的に担うために、医学部と看護学部の教務・学務・入試などの各

### ② 研究

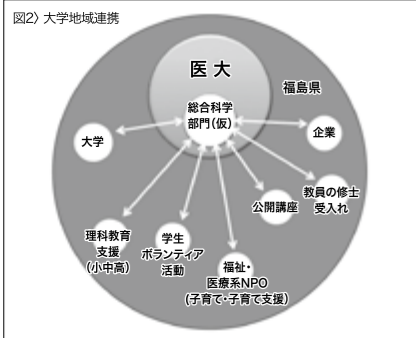
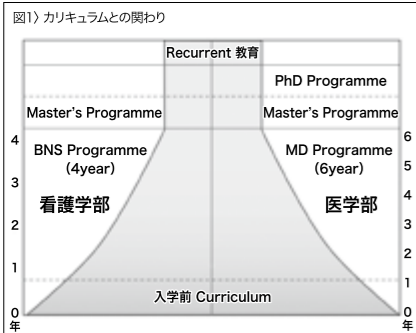
総合科学所属教員の各専門的知識を大学内の研究者に広く提供します。大学内における共同研究を活性化し、研究成果を積極的に発信し、広く社会に還元する。医療人育成支援センターとの協力を密にし、実践的能力を備えた医療人育成のための教育方法を研究します。

### ③ 大学地域連携

社会に開かれたリカレント教育の場として地域社会に貢献するために、公開講座、教員の大学院への受け入れを行います。また、専門的知識の社会へのさらなる還元として福祉・医療系NPO支援を行います。さらに大学連携に積極的に関わり、県内大学間の連携強化を図ります。

(かめだ まさのり)

## 総合科学部門センター化について



# Graduate School

## 大学院紹介

### 自分の力で、一歩ずつ前へ

大学院(精神看護学領域) 菅原 尚美



「看護って何だろう。」家族の看病中に、そんな疑問を持ったのが、看護師を目指したきっかけでした。26歳で短大へ入学。病院勤務の2年間を経て、大学で看護教育に携わるようになり、4年が経ちます。学生と向き合い看護を教える立場となつて、「看護って何だろう。」とあらためて考えるようになった時、「その答えは大学院にあるのでは?」と思い立ち、思い切つて中山先生のドアをたたきました。そして、大学院で学んで1年。その疑問を解き明かすヒントのかけらを、先生方や大学院生との出会いの中で、拾い集めています。答えに至る道は思った以上に曲がりくねつていて、答えが見えそう

### 大学院で学ぶことの

#### きつかけと意味

大学院(地域看護学領域) 菅野 聖子



私が大学院に進もうとしたひとつのきっかけは、「away」に身を置くということを手助けしてくれた、ある方がいたからです。問題が起きている渦中に自分自身が埋もれていると、解決の糸口が見えるはずなのに見えなくなったり、考えられなくなったりすることがあります。これまでの専門職としての自分を振り返り、これからどうしていったらいいかを様々な視点で考え、先生方や大学院の仲間と討論することはとても素晴らしい経験でした。大学院という研究をするところというイメージが一般的には

## 相馬市での心のケアチームの活動

家族看護学部  
加藤 郁子



心のケアチームの活動の一つである、相馬市での活動をお知らせします。

相馬市のある相双地域には、5つの精神科病院と3つの精神科診療所がありました。しかし原子力発電所の事故の關係で、震災後は7つの医療機関が閉鎖され、精神科医療が継続できない状態になってしまいました。

4月1日から、全国各地から支援に入られている精神科医や看護師、保健師達と一緒に避難所巡回し、地震や津波の影響、避難所での生活で精神的ストレスを抱えたりしている方々のお話を聴きながら、精神的な治療の必要性を判断したり、継続的なフォローを行ってきました。また、公立相馬総合病



とある日の心のケアチームメンバー(筆者 後列一番左)

## 被災地で出会った保健師たち

地域・在宅看護学部  
稲毛 映子



打ち合わせする保健師たち(筆者 前列左端)

災害時の保健活動の目的は、①住民の生命を守る、②不自由な生活やストレス等から引き起こされる健康障害を予防する、③住民の復旧・復興への意欲を高めることです。今回私は、相馬市での災害支援に携わる中で、様々な保健師の活動を垣間見ることができました。他県から派遣されている保健師にとつて相馬市は初めての土地であり、3〜7日という短い期間の活動のため、被災地の地域実情を把握するのは大変難しいことです。しかし、今回一緒に活動させていただいた他県保健師の方々は、相馬市に来た翌日から地図を片手に余震に臆することなく在宅被災者のお宅を訪問し健康チェック・相談を行っていました。また、避難所対応をしていた保健師は、相馬の名所・特産

物を通して物を感じながら相馬体操を作った避難所の高齢者が楽しく体操を行えるよう試みていました。そして、他県の保健師がスムーズに活動できるように市保健師らと様々な情報提供や調整をしていました。どの保健師も、前述した目的に向かつて懸命かつ柔軟に活動していて、保健師がもつポテンシャルの高さを実感しました。

震災から3か月が経とうとしています。復興と呼べる状態にはまだまだ時間が掛かります。福島県の地域保健に携わるものとして、今後も住民の復興・復興への意欲が維持できるように微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。

(いなけ えいこ)

## 看護学部カレンダー

6月18日(土)

● 開学記念日

7月2日(土)

● オープンキャンパス

7月18日(月)~9月16日(金)

● 助産学実習(4年次)

8月1日(月)~8月12日(金)

● 基礎看護学実習(2年次)

8月8日(月)~8月26日(金)

● 夏期休業

(1年次・3年次・編入3年次)

8月15日(月)~8月26日(金)

● 夏期休業(2年次)

8月1日(月)~26日(金)

● 夏期休業(4年次)

8月25日(木)~26日(金)

● 集中講義「医療経済学」

(2年次・編入3年次 選択科目)

9月17日(土)

● 編入学試験

10月26日(水)

● 解剖慰霊祭(1年次)

10月15日(土)~16日(日)

● 光が丘祭

## 編集後記

この度の東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。看護学部も震災の影響で5月からのスタートとなりました。しかし、震災後に咲いた桜、その後には芽吹いた新緑に、何とも言いようのない力強さを感じています。復興には様々な困難があると思いますが、皆さまが心から笑える日が1日も早く訪れることをお祈りしています。

最後に、震災の影響の中投稿してくださった皆さまに深く感謝申し上げます。

(わたなへ かおり)

## 【編集委員】

林 正幸、本多たかし  
中山 仁、横田 素美  
大川 貴子、馬場 香織  
福島 直美、星野 聡子  
林 紋美、渡邊かおり

## 平成22年度 保健師・助産師・看護師 国家試験の合格状況

	保健師	助産師	看護師
受験者(人)	91	7	86
合格者(人)	88	7	85
合格率(%)	96.7	100	98.8
全国合格率(%)	89.7	98.2	96.4

## 平成22年度 看護学部卒業生の進路状況 (人)

卒業見込者	92
就職	88
県内	51
県外	37
進学	2
その他	2